

養老令と天聖令の概要比較

服 部 一 隆

はじめに

律令法は律令格式という成文法をもつ法体系として隋唐期の中国において完成し、特に令法典は支配の手段として東アジア世界に大きな影響を与えた。

日本の古代国家は中国と同じく律令制を基本としていたため、その支配構造を明らかにするためには、手本とした唐令との比較が必要となる。

従来唐令は『唐令拾遺』『唐令拾遺補』によって復原されていたが⁽¹⁾、逸文を収集したものであるため、復原条文の全体における割合と配列が不明であった。これを補うのが近年発見された北宋代の令法典『天聖令』である⁽²⁾。『天聖令』は全編目の後半3分の1が残存しており、前半に現行法である宋令を、後半に現行法でない不行唐令（開元25年令）を配列している。唐令を基礎として作成されていることから、条文数の増減が無く、宋令・不行唐令のなかでは配列が変更されていない可能性が高い。したがって『天聖令』からは、条数・配列がほぼ正確な開元25年令を窺うことができるのである⁽³⁾。

2006年の全文公開以後、『天聖令』を使用した日唐令比較は各編目についての研究が進展しつつある。ところが、編目によっては唐令復原が困難なこともあり、全体を見通した比較にはまだ印象論にとどまっているものが多い。このような現状において、前稿では「唐令継受における編目ごとの特徴」を客観化するために宋令・不行唐令・養老令の条文数の特徴を数値化したが、個別条文における継受傾向の検討には至らなかった。

そこで本稿では、残存している日本令である養老令と『天聖令』の概要比較を行い、それを数値化することによって大まかな傾向を明らかにしてみたい。

1 編目別の比較の方法

全文公開によって、『天聖令』には養老令のほぼ全ての条文に対応する条文が存在することが明らかとなった。従来逸文からの復原唐令しか検討できなかったことを考えれば、『天聖令』残存編目に限るが、日唐令は全条文にわたる格段に精緻な比較が可能になったのである。

日唐令の比較には、直接の継受関係があるとされる永徽令と大宝令を用いることが理想であるが、両者ともに逸文でしか残存していない⁽⁴⁾。唐令では永徽令と開元令などとの、日本令では大宝令と養老令との、比較がそれぞれなされているが、逸文に依っているためその異同が判明するのはわずかな部分に限られていた⁽⁵⁾。

ところが『天聖令』を検討してみると、養老令の対応条文があるだけでなく、対応する字句も存在することが多く、両者は想定以上に類似していることが明らかとなった。このような現状では、『天聖令』と養老令の概要を比較し、大まかな傾向を明らかにしてから、微細な点について修正を加えてい

くというのが最も効率的である。

養老令と『天聖令』の比較に当たって、①養老令は日本思想大系『律令』の令文を、『天聖令』は『天聖令校証』の清本を使用し、②養老令の配列を基準として対応する『天聖令』と対照し、③養老令と共通する字句が『天聖令』に存在する条文ごとの割合を調査し、編目別にまとめる⁽⁶⁾。なお、『天聖令』に存在して養老令に存在しない条文は多いが、養老令と直接比較の対象とならないため、検討は省略する。

具体的には養老令に対応する『天聖令』条文を、宋令・不行唐令内での順番をなるべく変更しないように並べ、①『天聖令』に養老令の字句の大半が含まれるものを「◎」、②『天聖令』に養老令と明確に対応する複数の句が含まれるものを「○」、③『天聖令』に養老令と同一の字句を含むものを「△」、④配列と内容の対応により『天聖令』と養老令との関連が窺われるものを「▲」、⑤養老令に対応する『天聖令』が認められないもの（独自条文）を「☆」として、それぞれの条数を記し、これを継受傾向と呼ぶ。さらに編目別に〔(◎の数+○の数)÷養老令条数〕の百分率の値を養老令が唐令の内容を継受した度合いを示すものと判断して継受度と呼ぶ。

なお、本稿では養老令と『天聖令』を同一基準に依って条文比較するため、考証が必要な唐令復原等の処理は原則として実施しておらず、比較も簡略化している。各編目における個別の検討結果は本稿末尾の表2～13に記した。

行論の都合上、前稿で検討した項目である、宋（『天聖令』宋令条数）、唐（『天聖令』不行唐令条数）、計（宋+唐）、養（養老令条数）、独（養老令のうち『天聖令』に対応条文が確認できないもの）、不行唐令率（〔唐÷計〕の百分率）、継受率（〔養÷計〕の百分率）を併記しておく。

検討の前に全体の平均値を示しておく、宋24.4、唐18.4、計42.8、養老28.3、独自1.17、不行唐令率43%、継受率66%、継受度73%となり、各編目においてこれらの数値との相違が検討対象となるため、特に後半の三項目については個別数値の後に（ ）に入れて補記した。なお、上記の数値については、表1に整理した。

2 編目別の継受傾向

21 田令（表2）

宋7 唐49 計56 養37 独2 不行唐令率88%(43) 継受率66%(66) 継受度65%(73)

継受傾向 37条 ◎13 ○11 △8 ▲3 ☆2

不行唐令率は非常に高く、継受率は標準であり、継受度はやや低い。独自条文は養老11公田・12賜田の2条であり、養老10条までがひとまとまりの条文ととらえられていたとの指摘があり⁽⁷⁾、両条が制定された意義についても検討が始められている⁽⁸⁾。配列変更が確実なのは唐33の京官文武職事官への職分田であり、養老5の大臣・大納言への職分田として、位田・功田の間に移動されている。また宋2は養老16に対応するが、唐令では唐6・7の間に移動されているのという説が有力である⁽⁹⁾。

なお、養老31の「職分田」は大宝令では「公廩田」であり、養老36・37の「官田」は大宝令では「屯田」と、『天聖令』と共通する字句を使用している。

以上をまとめると、①公田（養老11）・賜田（養老12）が日本独自の条文であり、②日本令には「班田」という唐令にみられない規定が存在しており、③大宝令が唐令の「公廩田」「屯田」の字句を使用して養老令で「職分田」「官田」と改めたという3点以外は、養老令条文の要素は概ね『天聖令』に含まれているとみてよいであろう。

22 賦役令 (表3)

宋 23 唐 27 計 50 養 39 独 4 不行唐令率 54%(43) 継受率 78%(66) 継受度 71%(73)

継受傾向 39条 ◎16 ○12 △7 ▲0 ☆4

不行唐令率・継受率ともにやや高く、継受度は標準である。独自条文で特徴的なのは養老令の 37 雑徭・38 仕丁・39 斐陀国の規定が編目の末尾に作成されており、これらの条文は大宝令時に作成されたと想定されている⁽¹⁰⁾。その他、養老6義倉条も独自条文である。配列については、養老令の1～5条にあたる冒頭部分がかなり異なっており、改変が多い編目との指摘がある⁽¹¹⁾。その他養老令で目立つ独自規定は1調絹絶条における品目についてである。配列が大きく変わっているのは、唐 22・24の歳役に関する条文が養老4の箇所に移動されている部分で、何らかの意味づけの変更が想定でき、養老4歳役条は元来全員から庸を取る規定であるとする説が有力である⁽¹²⁾。

これらを要するに、養老令1～5に当たる部分に改変が多く、特に『天聖令』では後半に位置した歳役関係の条文が前半に移動されていること、養老6の義倉条および37 雑徭・38 仕丁・39 斐陀国が独自に規定されているほかは、養老令の規定はほぼ『天聖令』に含まれていると考えてよいであろう。

23 倉庫令 (表4)

宋 24 唐 22 計 46 養 22 独 2 不行唐令率 48%(43) 継受率 48%(66) 継受度 69%(73)

継受傾向 16条 ◎5 ○6 △3 ▲0 ☆2

不行唐令率は標準で、継受率は低く、継受度は若干低い。逸文によって復原されているのは16条であるが、『令集解』目録により全22条であると考えられる。日本令には調庸の収納倉庫を表す「蔵」が規定されていた⁽¹³⁾。

独自条文は従来の復原研究に依れば〈15〉割取交易物直条・〈16〉有人従庫蔵出条と考えられるが、編目全体が逸文から復原されているため、配列の問題も含めて、さらなる検討が必要であろう。

全体としては独自条文と思われる2条および「蔵」に関する規定以外は養老令条文の主要部分は『天聖令』に含まれていると想定できる。逸文に依るため上記の数値は正確なものではない。

24 厩牧令 (表5)

宋 15 唐 35 計 50 養 28 独 2 不行唐令率 70%(43) 継受率 56%(66) 継受度 53%(73)

継受傾向 28条 ◎6 ○10 △12 ▲1 ☆1

不行唐令率は高く、継受率はやや低い。継受度は非常に低い。独自条文は、12須校印であり、配列変更は、養老4・5が唐2・1に対応するという逆順になり、養老14・15の駅制に関する規定が、唐32・33に対応する。唐34・35と宋15はどこに入れるべきか確証はないが、内容が駅伝制に関連することから唐21の後に配列しておく⁽¹⁴⁾。

養老6の馬牛の増殖に関する規定が唐6・7、養老10の馬牛の校印規定が唐11・15条のそれぞれ2箇所と対応している。養老令は唐令からかなり省略されており、対応条文が存在しても唐令と異なる規定が多い。

駅伝関係条文の検討によれば、日本令は唐令継受に当たって取捨選択しており、交通手段・財源が一元化され、軍事的な規定が継受されていないという⁽¹⁵⁾。

全体的に見れば、ほぼ全ての養老令条文に対応する『天聖令』条文が存在するが、継受度が低いことから判るように、規定内容はかなり相違する点があるといえる。

25 関市令 (表6)

宋 18 唐 9 計 27 養 20 独 0 不行唐令率 33%(43) 継受率 74%(66) 継受度 80%(73)

継受傾向 20条 ◎7 ○9 △4 ▲0 ☆0

不行唐令率は低く、継受率はやや高い。継受度もやや高い。日本の状況に合わせて、いくつかの条文を継受していないとされる⁽¹⁶⁾。

独自条文、配列変更ともにない。養老令の規定は『天聖令』条文にほぼ含まれると言ってよい。

25（附）捕亡令（表7）

宋9 唐7 計16 養15 独0 不行唐令率56%(43) 継受率93%(66) 継受度93%(73)

継受傾向 15条 ◎11 ○3 △1 ▲0 ☆0

不行唐令率はやや高く、継受率・継受度ともに非常に高い。

独自条文はなく、配列変更もない。唐1以外は全ての条文を継受しており、養老令条文の内容は、ほぼ『天聖令』条文に存在していると言ってよい。

26 医疾令（表8）

宋13 唐22 計35 養27 独0 不行唐令率63%(43) 継受率77%(66) 継受度77%(73)

継受傾向 27条 ◎12 ○9 △6 ▲0 ☆0

不行唐令率は高く、継受率はやや高い。継受度は若干高い。本編目は逸文しか存在しないが、『令集解』目録によれば、養老令は27条である。条文の判明部分によれば、独自条文はない。養老令の配列は『政事要略』の引用順により一部復原でき（表8の〈1〉～〈19〉）、『天聖令』との矛盾はない。養老1・2条が『天聖令』宋令2・1条に対応する。

令の構成、表現・字句は細部にいたるまで一致しており、日本令は唐令をそのまま継受し、独自条文は存在せず、宋令で医針学とあるのは唐令では養老令と同様に医針生であると想定でき、冒頭部分も唐令は養老令と同一であるとする説がある⁽¹⁷⁾。

逸文から復原されているので確実なことは言えないが、養老令に存在する要素はほぼ『天聖令』にあると言ってよい。上記の数値も正確なものではない。

26（附）仮寧令（表9）

宋23 唐6 計29 養13 独0 不行唐令率21%(43) 継受率45%(66) 継受度79%(73)

継受傾向 13条 ◎8 ○3 △3 ▲0 ☆0

不行唐令率・継受率ともに低く、継受度は若干高い。唐の仮寧制度を官人の政務運営に関わる規定として継受しており、個人の礼に関わる規定は削除する傾向があるとされている⁽¹⁸⁾。

独自条文・配列変更ともにない。養老令条文はかなり『天聖令』と共通しているが、省略されている条文が多い。

27 獄官令（表10）

宋59 唐12 計71 養63 独1 不行唐令率17%(43) 継受率89%(66) 継受度83%(73)

継受傾向 63条 ◎33 ○19 △9 ▲1 ☆1

不行唐令率は非常に低く、継受率は非常に高い。継受度はやや高い。

独自条文は養老55 応給衣糧であり、配列変更は宋49・50の杖笞に関する規定が養老42・41という末尾の条文に順序を入れ替えて対応している。これ以外の養老令規定はほぼ『天聖令』に存在する。

28 營繕令（表11）

宋28 唐4 計32 養17 独0 不行唐令率13%(43) 継受率53%(66) 継受度94%(73)

継受傾向 17条 ◎9 ○7 △0 ▲1 ☆0

不行唐令率は非常に低く、継受率はやや低い。継受度は非常に高い。唐令からの継受が少ない理由について、日本令制定時には地方における大規模造営が少なく、制度や技術段階が異なっているため継受されなかったとされる⁽¹⁹⁾。独自条文・配列変更ともにない。養老令のほぼ全ての内容が『天聖令』

で確認できるが、多くの条文が削除されている。

29 喪葬令 (表 12)

宋 33 唐 5 計 38 養 17 独 0 不行唐令率 13%(43) 継受率 45%(66) 継受度 59%(73)

継受傾向 17 条 ◎4 ○6 △5 ▲1 ☆0

不行唐令率は非常に低く、継受率も低い。継受度は非常に低い。独自条文は、養老 11 皇親及五位以上と考えられる。

日本令は唐令をほぼそのまま引き写して作成され、養老 11 の対応唐令は存在するという説もある。⁽²⁰⁾ 配列変更はない。養老令と対応する『天聖令』条文は存在するが、条文・内容は大幅に省略され、独自規定に変更されているものが多い。

30 雑令 (表 13)

宋 41 唐 23 計 64 養 41 独 2 不行唐令率 36%(43) 継受率 64%(66) 継受度 54%(73)

継受傾向 41 条 ◎12 ○10 △11 ▲6 ☆2

不行唐令率は低く、継受率は標準的であり、継受度は非常に低い。

独自条文は、養老 40 諸節日・41 大射者であり、末尾条文群と位置づけられている⁽²¹⁾。日本令は唐令の条文配列を踏襲し、特殊技術生や雑任に関わる規定を継受していないとされる⁽²²⁾。配列変更はない。養老令の規定は『天聖令』に対応するものが確認されるが、条文・内容ともかなり省略されている。

3 編目ごとの傾向と唐令継受の方法

上記について表 1 および下図によって整理してみる。

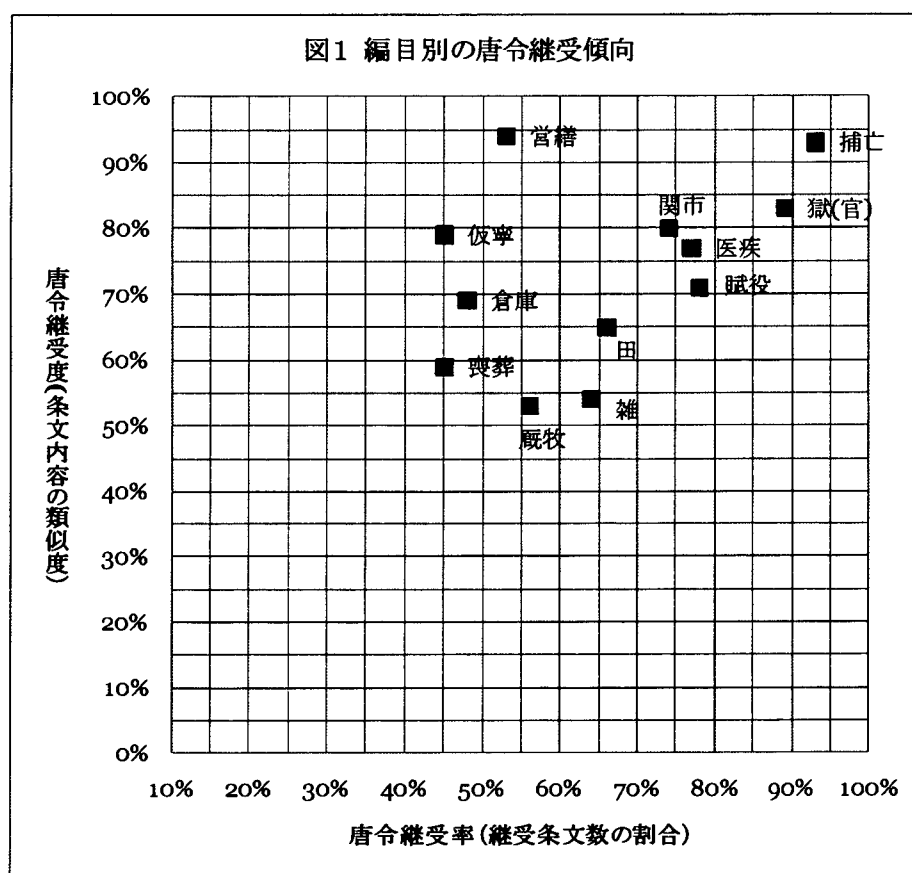
独自条文がある編目のうち、賦役・雑には末尾条文群が、田にも区切りの後に付された規定がある。これらは大宝令にも存在したと考えられ、浄御原令との関係を検討する必要があるだろう。

天聖令全条文における唐令の割合（不行唐令率）は平均 43%で宋令の方がやや多い。グループ分けすると、田・厩牧・医疾が 60%以上、捕亡・賦役・倉庫が 50%前後、雑令・関市令が 30%台、仮寧・獄(官)・営繕・喪葬は 20%以下となる。不行唐令率が高いと唐令の復原精度も上がり、日本令との比較研究もしやすいが、宋令も唐令と同様である条文も多く、比較が可能である場合も多い。

日本令の唐令継受率（養老令条文数÷『天聖令』条文数）は平均 66%で、捕亡・獄(官)が 90%前後、賦役・医疾・関市・田・雑が 70~60%、厩牧・営繕・倉庫・仮寧・喪葬は 50%前後と分類できる。本項目は、唐令のうちどの程度の条数を養老令にとり入れたかの指標となる。

養老令の唐令継受度（〔継受傾向◎○の数〕÷養老令条文数）は平均 73%である。分類すると、営繕・捕亡が 90%台、獄(官)・関市・仮寧・医疾は 80%前後、賦役・倉庫・田が 70%前後、喪葬・雑・厩牧は 50%台となる。この値は、養老令条文に『天聖令』条文とどの程度共通性があるか、端的に言えば、養老令が唐令の内容をどの程度引き写しているかを示すといつてよい。なお、『天聖令』は唐令から改変されている部分もあるので、実際の唐令継受度が、これよりも上がることは確実である。

これらは個別の項目を検討してもわかりにくいので、唐令継受度を縦軸に、唐令継受率を横軸にして図示すると次ページの通りである（図 1）。倉庫・医疾は逸文のため不正確であり、復原唐令に基づけば、分布は全体として右上に移動すると想定される。



それではこのような傾向から何が判るのだろうか。まず、唐令継受度が高いものについては、その類似が永徽令から大宝令への継受段階にさかのぼる可能性が高い。つまり永徽令の条文は唐日令に引き継がれ、以後それほどの変化がなかったということになる。さらに『天聖令』が唐令から改変されていることを考慮すると、この部分は上記以上に増えることとなるであろう。

つぎに、唐令継受度が低いものと独自条文からは何が言えるだろうか。ここで注意したいのは、日本令で独自規定を作成する際も唐令条文を改変して盛り込む場合が大半を占めることである。田令の班田や雑令 26・27 の進薪などは、日本の独自規定と考えられるが唐令の改変によって規定されている顕著な例である。つまり唐令を継受した条文でも内容が同じとは限らないことになる。

独自条文を作成するのは、唐令条文の改変によって新规定が盛り込めない場合に限定されているようで、例えば賦役令（37 雑徭・38 仕丁・39 斐陀国）や雑令（40 節日・41 大射）に存在する末尾条文群や、条文のまとまりの後に作成された田令（11 公田・12 賜田）などが挙げられる。

つまり、日本令の独自規定は、唐令の改変によって盛り込まれるのが大半で、それが不可能な場合にのみ独自条文の作成によって規定されているということになる。ただし独自規定としているものも他編目の唐令を継受したり、格式などを利用した可能性があるので検討が必要であろう。

また、本稿では検討しなかったが、削除部分についても検討が必要である。これを「選択的継受」と評価したり、独自性を創出したとする意見もあるからである⁽²³⁾。

以上養老令と『天聖令』の概要比較によって明らかになる部分を論じてきた。今後は復原唐令との一字一句の比較検討、法の内容に踏みこんだ研究が必要となる。そこから大宝令制定における唐令継受や浄御原令段階における法制などにも迫ることが可能になるであろう。

本稿は2010年5月8日の日本史研究会古代史部会報告「天聖令研究の現状と大宝令復原研究」の一部をまとめたものであり、科学研究費補助金(若手研究B)課題番号21720240「天聖令を使用した大宝令の復原研究」の成果の一部である。

注

- (1) 仁井田陞『唐令拾遺』(東京大学出版会1964年、初刊1933年)、仁井田陞著・池田温編集代表『唐令拾遺補』(東京大学出版会1997年)。
- (2) 天一閣博物館・中国社会科学院歴史研究所天聖令整理課題組校証『天一閣蔵明鈔本天聖令校証 附唐令復原研究』上・下、(中華書局2006年…以後『天聖令校証』と呼ぶ)。本文献は本稿全体にわたって参照している。
- (3) 天聖令の概要については、服部一隆「日本における天聖令研究の現状—日本古代史研究を中心に—」(『古代学研究所紀要』12、2010年…以下前稿と呼ぶ)を参照。なお、本稿の参考文献は、必要最小限のものしか記していないため、詳細な文献については、『天聖令』研究文献目録—日本語文献を中心に—(『同』)および、岡野誠・服部一隆・石野智大共編『天聖令』研究文献目録(第2版)(『法史学研究会会報』14、2010年)を参照のこと。
- (4) 大宝令の手本(藍本)となった唐令が永徽令であることは、滝川政次郎「大宝律令」(『律令の研究』名著普及会、1988年、初刊1931年)を参照。
- (5) 唐日令各々の相違点については、『唐令拾遺』『唐令拾遺補』(前掲)を参照。
- (6) 厳密には『天聖令』は校録本および影印を使用し、養老令も『令義解』『令集解』の写本を検討すべきであるが、概要比較のため本稿の方法を用いた。
- (7) 服部一隆「日唐田令の比較と大宝令」(『文学研究論集(文学・史学・地理学)』18、2003年)。
- (8) 三谷芳幸「田令公田条・賜田条をめぐって」(『日本歴史』726、2008年)。
- (9) 唐田令の配列は前稿の検討による。
- (10) 大隅清陽「大宝律令の歴史的位相」(大津透編『日唐律令比較研究の新段階』山川出版社2008年)。
- (11) 大津透「北宋天聖令の公刊とその意義—日唐律令比較研究の新段階—」(『東方学』104、2007年)。
- (12) 大津透「唐日賦役令の構造と特色」(『日唐律令制の財政構造』岩波書店2006年、初出2002年)。
- (13) 武井紀子「日唐律令制における倉・蔵・庫—律令国家における収納施設の位置づけ」(『日唐律令比較研究の新段階』前掲)、同「日本古代倉庫制度の構造とその特質」(『史学雑誌』118-10、2009年)。
- (14) 養老令との対応を示すためのもので、配列復原は今後の課題である。
- (15) 市大樹「日本古代伝馬制度の法的特徴と運用実態—日唐比較を手がかりに—」(『日本史研究』544、2007年)。
- (16) 吉永匡史「律令制度の構造と特質」(『東方学』117、2009年)。
- (17) 丸山裕美子「北宋天聖令による唐日医疾令の復原試案」(『愛知県立大学日本文化学部論集』1(歴史文化学科編)、2010年)。
- (18) 丸山裕美子「律令国家と仮寧制度—令と礼の継受をめぐって—」(『日唐律令比較研究の新段階』前掲)。
- (19) 古瀬奈津子「宮繕令からみた宋令・唐令・日本令」(『日唐律令比較研究の新段階』前掲)。
- (20) 稲田奈津子「北宋天聖令による唐喪葬令復原研究の再検討—条文排列を中心に—」(『東京大学史料編纂所紀要』18、2008年)。
- (21) 大隅清陽「大宝律令の歴史的位相」(前掲)。
- (22) 三上喜孝「北宋天聖雜令に関する覚書—日本令との比較の観点から—」(『山形大学歴史・地理・人類学論集』8、2007年)。
- (23) 『日唐律令比較研究の新段階』前掲の諸論文および十川陽一「日唐宮繕令の構造と特質」(『法制史研究』58、2009年)。

表 1 天聖令と養老令の比較

巻	編目	宋令	唐令	計	養老	独自	唐令率	継受率	継受度
21	田令	7	49	56	37	2	88%	66%	65%
22	賦役令	23	27	50	39	4	54%	78%	71%
23	倉庫令	24	22	46	22	2	48%	48%	69%
24	厩牧令	15	35	50	28	2	70%	56%	53%
25	関市令	18	9	27	20	0	33%	74%	80%
25*	捕亡令	9	7	16	15	0	56%	93%	93%
26	医疾令	13	22	35	27	0	63%	77%	77%
26*	仮寧令	23	6	29	13	0	21%	45%	79%
27	獄官令	59	12	71	63	1	17%	89%	83%
28	營繕令	28	4	32	17	0	13%	53%	94%
29	喪葬令	33	5	38	17	0	13%	45%	59%
30	雜令	41	23	64	41	3	36%	64%	54%
	合計	293	221	514	339	14			
	平均値	24.42	18.42	42.83	28.25	1.17	43%	66%	73%
	最大値	59	49	71	63	4	88%	93%	94%
	最小値	7	4	16	13	0	13%	45%	53%

〔凡例〕

巻…『天聖令』の巻数 *は附編

編目…『天聖令』の編目名

宋令…『天聖令』宋令の条文数

唐令…『天聖令』不行唐令の条文数

計…宋令+唐令の値

養老…養老令の条文数

独自…養老令における独自条文数

唐令率…唐令÷計の値(不行唐令率)

継受率…養老÷計の値(唐令継受率)

継受度…継受条文数÷養老の値
(唐令継受率)

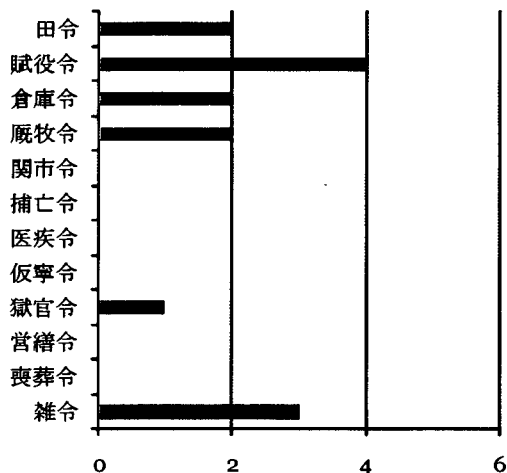
合計…上記条文数の合計

平均値…上記数値の平均値

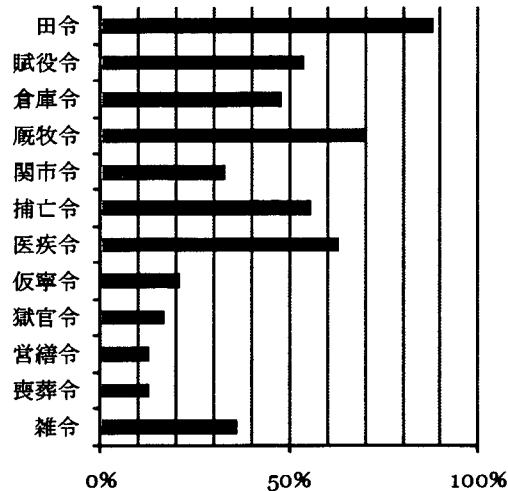
最大値…上記数値の最大値

最小値…上記数値の最小値

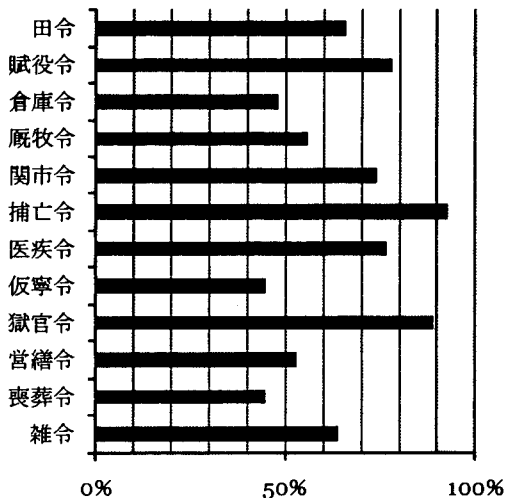
養老令独自条文数



不行唐令率



唐令継受率



唐令継受度

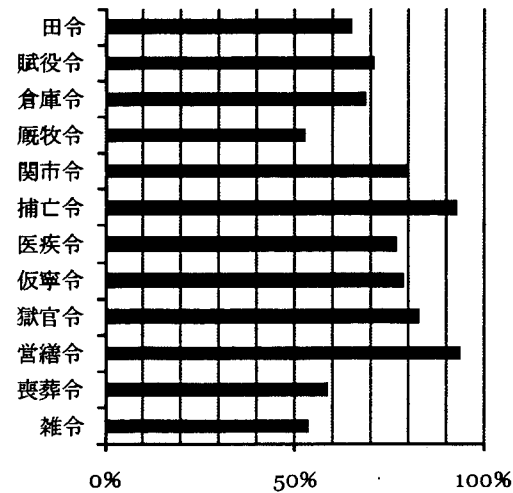


表2 21田令の継受傾向

宋	唐	拾遺	養	条文名(養)	継受
1		1	1	田長	△
	賦3	2	2	田租	○
	1	3	3	口分	○
	2				
	3				
	4				
	5	4	4	位田	△
	33	31	5	職分田	△
	6	5	6	功田	▲
	7	7			
	8	8	7	非土人	○
	9	9	8	官位解免	◎
	10	10	9	応給位田	◎
	11	11	10	応給功田	○
	12				
			11	公田	★
			12	賜田	★
	13	12	13	寛郷	◎
	14	13	14	狭郷田	◎
	15				
	16	14	15	園地	▲
2		6	16	桑漆	△
	17	15			
	18	16・17	17	宅地	○
	19	18			
	20	19	18	王事	◎
	21	20	19	賃租	○
	22	21	20	從便近	◎
	23		21	六年一班	○
	24		22	還公田	◎
	25	22・23・13	23	班田	◎
	26	23	24	授田	◎
	27		25	交錯	◎
	28	24			
3		補2	26	官人百姓	◎
	29	25	27	官戸奴婢	○
4		26	28	為水侵食	◎
	30	27	29	荒廢	○
5		28	30	競田	◎
	31				
	32	29			
6		30	31	在外諸司職分田	△
	34	32	32	郡司職分田	△
	35	33	33	駅田	△
7		34・35	34	在外諸司	○
	36				
	37		35	外官新至	▲
	38	36	36	置官田	△
	39	37			
	40		37	役丁	○
	41～ 49				

37条 ◎13 ○11 △8 ▲3 ☆2

☆2としたのは他編目の方針と合わせた
服部「日唐田令の比較と大宝令」

表3 22賦役令の継受傾向

宋	唐	拾遺(補)	養	条文名(養)	継受
1		1・2	1	調絹絶	△
			2	調皆随近	○
	2	3	3	調庸物	○
	22	4	4	歳役	○
	24	5			
	1	8	5	計帳	△
			6	義倉	★
2		補1	7	土毛	△
	4				
	5				
3					
	6				
	7	10	8	封戸	△
	8	11	9	水旱	◎
4					
5		12	10	辺遠国	◎
6		13	11	錫符	◎
	9	14	12	春季	◎
	10		13	口及給侍	◎
	11	15	14	人在狭郷	◎
	12	16・17・18	15	没落外蕃	◎
	13		16	外蕃還	○
7		19	17	孝子順孫	◎
8		20			
	14	20	18	三位以上	◎
	15	21	19	舍人史生	△
	16	23	20	除名未叙	◎
	17				
	18				
	19	補2	21	免暮年徭役	○
	20	24・26	22	雇役丁	△
	21				
9(前)		24			
9(後)		25	23	差科	◎
10		5			
	23		24	丁匠賦役	◎
11			25	有事故	◎
12					
13			26	役丁匠	○
14			27	营造	◎
15			28	丁匠在役遭父母喪	○
16			29	藁藍	○
17					
18			30	斟酌功力	◎
19			31	丁匠往来	○
20			32	赴役身死	○
21			33	昼作夜止	○
	25				
	26				
22			34	車牛人力	◎
	27	27	35	貢獻物	○
23		補3	36	調物	△
			37	雜徭	★
			38	仕丁	★
			39	斐陀国	★

39条 ◎16 ○12 △7 ▲0 ☆4

大津「唐日賦役令の構造と特色」

表4 23倉庫令の継受傾向(参考)

宋	唐	拾遺	養(逸)	条文名(養)	継受
1			〈1〉	倉於高燥処置	○
2		1	〈2〉	受地租	○
3		補3			
	1	3・6	〈7〉	倉貯積	○
	2	補1			
4					
	3				
	4	3			
5		補2	〈3〉	倉出給	○
			〈4〉	大蔵出給	△
	5	2			
6		参3			
	6	参2			
	7				
	8	7	*		
7					
	9		*		
	10		*		
8					
9		4			
10					
11					
12			〈13〉	欠負官倉	○
13					
14			*		
15			〈5〉	倉蔵給用	◎
16					
17			〈11〉	倉蔵文案孔目	◎
18			〈6〉	倉蔵貯積雜物	◎
19			〈12〉	倉蔵受納	◎
20			〈14〉	欠負官物	◎
	11		*		
21					
22					
23					
24			〈8〉	置公文庫鑲鑰	△
	12		〈9〉	在京倉蔵巡察	△
	13		〈10〉	調庸物応送京	○
	14				
	15	参4			
	16	参4			
	17				
	18				
	19				
	20		*		
	21	参5			
	22	参6			
			〈15〉	割取交易物直	☆
			〈16〉	有人従庫蔵出	☆

*…令文の存在が想定される条

16条 ◎5 ○6 △3 ▲0 ☆2

武井「日本古代倉庫制度の構造とその特質」

表5 24厩牧令の継受傾向

宋	唐	拾遺	養	条文名(養)	継受
1		1	1	厩細馬	△
2		2			
3		3	2	馬戸分番	▲
4					
5			3	官畜	○
	2		4	牧馬帳	△
	1	4	5	牧每牧	△
	3				
	4				
	5	5			
	6		6	牧牝馬	◎
6					
	7		6*		
	8	6	7	每乗駒	△
	9	7	8	死耗	◎
	10	8	9	失馬牛	○
	11	9	10	駒槽	△
	12				
	13				
	14				
	15		10*		△
7					
	16				
	17				
	18				
	19				
8			11	牧地	◎
			12	須校印	☆
	20		13	牧馬応堪	△
	32	10	14	須置駅	○
	33	11	15	駅各置長	△
	34				
	35				
15					
	21	13	16	置駅馬	△
11		14	17	水駅	△
12			18	乗駅	○
	22	17	19	軍団官馬	○
	23	18	20	駅伝馬	○
9			21	公使乗駅	△
	24				
	25				
	26		22	乗伝馬	○
	27				
10		19	23	国郡	○
	28	20	24	闌遺物	○
	29		25	官私馬牛	○
	30				
	31		26	官馬牛	△
13		21	27	因公事	◎
14		23	28	官畜	◎

28条 ◎6 ○10 △12 ▲1 ☆1

『天聖令校証』

表6 25関市令の継受傾向

宋	唐	拾遺	養	条文名(養)	継受
1		1	1	欲度関	○
	1				
2		2	2	行人出入	◎
			3	行人度関	△
3			4	賣過所	○
4					
5		3			
	2		5	丁匠上役	◎
	3				
	4				
	5				
	6	補1	6	弓箭	△
6		補2	7	蕃格	◎
7			8	官司	○
8		4	9	禁物	○
	7				
9			10	関門	◎
	8	6	11	市恒	○
10		7	12	每肆立標	○
11		8	13	官私交関	◎
	9	9	14	官私権衡	○
12		10	15	用称	◎
13		11	16	売奴婢	△
14		12	17	出売	○
15			18	在市	△
16		13	19	行濫	◎
17		5	8*		
18		補3	20	除官市買	○

20条 ◎7 ○9 △9 ▲0 ☆0
 吉永「律令関制度の構造と特質」

表7 25(附)捕亡令の継受傾向

宋	唐	拾遺	養	条文名(養)	継受
1		1	1	囚及征人	◎
2		2	2	有盜賊	◎
3			3	追捕罪人	◎
	1				
4			4	亡失家人	○
	2	3	5	糺捉盜賊	◎
5			6	有死人	◎
	3		7	官私奴婢	◎
	4	4	8	捉逃亡	◎
	5	5	9	逃亡奴婢	◎
	6		10	逃亡奴婢	◎
	7		11	平奴婢価	◎
6			12	訴良人	○
7			13	博戲	◎
8			14	両家奴婢	○
9		6	15	得関遺物	△

15条 ◎11 ○3 △1 ▲0 ☆0
 『天聖令校証』

表8 26医疾令の継受傾向(参考)

宋	唐	拾遺	養(復)	養(逸)	条文名(養)	継受
2		補1	1	〈1〉	医博士	○
1			2	〈2〉	医生等取薬部及世習	△
3		8	3	〈3〉	医針生受業	◎
4		2	4	〈4〉	医針生初入学	◎
	1	6	5	〈5〉	医生教習	◎
5			6	〈6〉	医針生誦古方	◎
	2	3	7	〈7〉	医針生考試	◎
	3	7	8	〈8〉	医針生成業	◎
6			9	〈9〉	自学習解医療	△
	4		10	〈10〉	医針生束脩	○
	5		11	〈11〉	教習本草等	◎
	6	補2	12	〈12〉	定医針師考第	◎
	7	補3	13	〈13〉	医針生選叙	○
	8	補4	14	〈14〉	按摩呪禁生学習	◎
7			15	〈15〉	医針生等不得雜使	○
	9	9	16	〈16〉	女医	△
8			17	〈24〉	五位以上病患	△
	10					△
	11	補5	18	〈21〉	依薬所出収採	◎
	12	5	19	〈20〉	薬園	○
	13	補6	20	〈22〉	採薬師	◎
9			×			
10		1	21	〈23〉	合和御薬	△
	14		×			
11		4	22	〈25〉	典薬寮合雑薬	△
12			×			
	15	11	23			
	16		24	〈26〉	医針師巡患家	○
	17		×			
13			25	〈17〉	国医生	○
	18		26	〈18〉	国医師	○
	19		27	〈19〉	国医生試	○
	20		22*			
	21	10	24*			
	22		×			

27条 ◎12 ○9 △6 ▲0 ☆0
 〈1〉～〈24〉まで『政事要略』に引用
 丸山「北宋天聖令による唐日医疾令の復原試案」

表9 26*仮寧令の継受傾向

宋	唐	拾遺	養	条文名(養)	継受
1					
2		1			
3			1	給休仮	△
	1				◎
	2	15			
	3	2	2	定省仮	◎
	4	3			
4		4			
5		16			
6		5			
7			3	職事官	△
8		6			
9					
10					
11		7	4	無服瘍	○
12					
13		8	5	師經受業	◎
14			6	改葬	△
15		9	7	聞喪	◎
16		10	8	給喪葬	◎
17		11	9	給喪仮	◎
18					
19		12			
20			10	官人遠任	◎
	5		11	請仮	○
21					
22		13	12	外官聞喪	◎
	6	14	13	外官任訖	○
23					

13条 ◎8 ○3 △3 ▲0 ☆0
丸山「律令国家と仮寧制度」

表10 27獄(官)令の継受傾向

宋	唐	拾遺	養	条文名(養)	継受
1		1	1	犯罪	△
2		2	2	群決	△
3					
	1	4	3	国断	◎
	2	3			
4		5	4	覆囚使	○
5		6	5	大辟罪	○
6		7	6	断罪	○
	3	8	7	決大辟	◎
7		9	8	五位以上	△
8					
	4	10	9	囚死	◎
9		11	10	犯流以下	◎
10		12	11	流人科断	◎
11		13	12	配三流	△
	5	14	13	流移人	◎
12			14	通送	△
13			15	在路	○
14		15	16	至配所	◎

	6	16	17	六載	◎
15		17	18	犯徒応配居役者	○
16		18	19	流徒罪	○
17			20	徒流囚	▲
18		補1	21	婦人産	○
	7	補6	22	流移人	○
	8				
19		補7	23	婦人在禁	◎
20			24	犯死罪	◎
21		19	25	公坐相連	△
22			26	父祖官蔭	◎
23					
24			27	因犯移配	◎
25		20	28	応除免	◎
26			29	除免官当	○
27		21	30	犯罪事発	◎
28		22	31	犯罪未発	○
29		23	32	告言人罪	○
30		24	33	告密	◎
31			34	因逮引人	○
32		25	35	察獄之官	◎
33		26	36	非親訊司	○
34			37	冤枉	◎
35		27	38	問囚	◎
36		28	39	禁囚	◎
37		29	40	犯罪応入	○
38		補2	41	諸司断事	◎
	9	30	42	応議請減	◎
39		31	43	五位以上	○
40			44	奉使	◎
41		補3	45	婦人在禁	◎
42		32	46	当処長官	○
43		33	47	盜発	△
	10	補8	48	犯死罪	◎
44		34	49	鞠獄官司	○
45			50	檢位記	◎
46		35	51	有疑獄	○
47		43			
48		36	52	贖死刑	○
51		37	53	給席薦	◎
52		38	54	有疾病	◎
			55	応給衣糧	★
53		39	56	至配所	△
54					
55		補4	57	在京繫囚	◎
56			58	犯罪	◎
	11				
	12		59	放賤為家人	◎
57			60	資財入官	◎
58			61	弁証已定	◎
59		40	62	傷損於人	◎
50		41	63	杖笞	△
49		42			△

63条 ◎33 ○19 △9 ▲1 ☆1
『天聖令校証』

表11 28宮繕令の継受傾向

宋	唐	拾遺	養	条文名(養)	継受
1		1	1	計功程	◎
2					
3		2	2	有所營造	◎
4		3			
5		4			
6		4	3	私第宅	◎
7		5			◎
8		6	4	營造軍器	◎
9					
10		補1	5	錦羅	○
11		追補			
12		7	6	在京營造	○
13					
14			7	解巧作	▲
15			8	貯庫器仗	◎
16					
	1				
	2		9	須女功	○
17		補2	10	瓦器経用	◎
	3				
	4				
18		補3	11	京内大橋	○
19		補4	12	津橋道路	◎
20					
21			13	有官船	○
22			14	官私船	○
23			15	官船行用	◎
24		補5・補6			
25					
26		8	16	近大水	○
27					
28		補7	17	堤内外	◎

17条 ◎9 ○7 △0 ▲1 ☆0
 十川「日唐宮繕令の構造と特質」

表12 29喪葬令の継受傾向

宋	唐	拾遺	養	条文名(養)	継受
1			1	先皇陵	○
2		1			
3		3			
4		4	2	服錫紵	△
5			3	京官三位	○
		6	4	百官在職	○
	1				
6		8・補3	5	職事官	○
7		9	6	賻物	◎
8					
9		補1			
10		5			
11					
12		補2			
	2	10	7	官人從征	○
13		7			
14		11			
15		12			
16		13			
17			8	親王一品	○
18		14			
19					
	3	16			
20					
21		17			
22					
23					
	4	附録	9	皇都	△
	5				
24		18	10	三位以上	△
25					
		19	11	皇親及五位以上	
26		20	12	立碑	△
27		21	13	身喪戸絶	△
28					
29		22	14	親王	◎
30					
31		23	15	薨卒	◎
32					
33		24	16	喪葬	◎
附			17	服紀	▲

17条 ◎4 ○6 △5 ▲1 ☆0
 稲田「北宋天聖令による唐喪葬令復原研究の再検討」

表13 30雑令の継受傾向

宋	唐	拾遺	養	条文名(養)	継受
1		1	1	度十分	◎
2		2			
3		3			
4		4	2	度地	△
5		5	3	用度量	△
6		6	4	度地五尺為歩	◎
7		7	5	月六斎	▲
8		補8			
9		補1	6	造曆	△
	1		7	取諸生	▲
	2				
9*		8	8	秘書玄象	○
10		9	9	国内	○
11		10	10	知山沢	◎
12					
13					
	3				
	4				
14		11	11	公私材木	◎
15		12	12	取水溉田	◎
16			13	要路津濟	○
17					
	5				
18					
	6				
	7				
19		補2	14	庁上及曹司座者	△
			15	在京諸司	▲
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
20		14	16	因使得賜	△
21					
	13				
22		15	17	訴訟	○
23		16	18	家長在	◎
24		17	19	公私以財物	○
25		18	20	以稲粟	○
	14	19	21	出挙	◎
26		20	22	宿蔵物	◎
27		21	23	畜産軀人	◎
	15	29			
28					
29					
30		22	24	皇親	△
31		23	25	私行人	△
32					
33					
	16		26	文武官人	▲
			27	進薪	▲
34		補3	28	給炭	△
35		補4	29	蕃使往還	○
36			30	犯罪被戮	◎

	17				
	18				
	19				
	20				
	21		31	官戸奴婢	○
	22	24	32	放休仮	△
	23		33	充役	◎
	〈24〉	25	34	給衣服	▲?
37			35	外官	○
38		26	36	外任人	◎
39			37	公廨	○
40		27	38	造僧尼籍	△
41		補5	39	作檻穿	△
		補7	40	諸節日	☆
		28	41	大射者	☆

41条 ◎12 ○10 △11 ▲6 ☆2

唐〈24〉は『天聖令校証』により推定されている
『天聖令校証』・三上「北宋天聖雑令に関する覚書」

編目別継受傾向表 凡例

1. 天聖令と養老令を対照し、各条文における継受の傾向を示した
2. 配列は養老令に従い、対応する天聖令の条文(宋令・不行唐令)を配列した
3. 対応する唐令拾遺(唐令拾遺補)の条文番号を記して便宜を図った
4. 特に注目すべき点はゴシック体とした
>
5. 各表の末尾に参考文献と注意点を記した

宋…天聖令宋令の条文番号

唐…天聖令不行唐令の条文番号

拾遺…唐令拾遺(唐令拾遺補)の条文番号

養…養老令の条文番号

条文名(養)…養老令の条文名(思想大系)

継受…養老令が唐令を継受している度合い

◎…天聖令に大半の字句が含まれるもの

○…天聖令に対応する複数の句が含まれるもの

△…天聖令に同一の字句を含むもの

▲…配列・内容から関連がうかがえるもの

☆…天聖令に対応する条文がないもの